

知事臨時記者会見

■日時 令和3年7月28日（水）18:30～18:40

■会場 応接室

【質問事項】

1 新型コロナウイルス感染症への対応について

【記者】

改めて、3市で（外出）自粛、時短要請をするということは、かなり異常な、全県対応に近い異常な状態だと思いますが、この非常事態の認識と県民への呼び掛けについて伺います。

【知事】

今回、五つの指標、七つの区分を見ますと、病床の使用率が48.6%、重症者用病床が22.4%と、それぞれステージ3という状況にあります。また、他の指標も先週に比べて極めて悪化しています。全体としては、ステージ2相当ですが、やはりステージ3に近づいているという厳しい状況にあります。

このように、感染状況が悪化している大きな要因は、中核市3市、すなわち、福島市、郡山市、いわき市、この三つの市において感染状況が悪化していることによるものです。

まず郡山市ですが、既に集中対策として、時短等をお願いしています。現在、10万人当たりの1週間の新規陽性者数が31.94人と、ステージ4を超えました。そして、福島市が20.92人、いわき市が17.05人と、それぞれ急激に感染状況が悪化して、ステージ3のレベルに入っています。

福島県の中でも、この3市は人口が30万人規模と、非常に大きい都市です。ここにおいて、このように急激に感染者数が増えることにより病床が圧迫されます。具体的に申し上げますと、県北地区、福島市のエリアでは既に55.1%。ステージ4の水準が50%ですので、それを超えています。いわき地区においては60.9%。また、県中地区、郡山エリアにおいては55.4%ですが、既に広域調整も行っていますので、それを加味すると98.0%と、ほぼ100%の病床が実質的に埋まっている状況です。

これまでも、例えば会津若松市であったり、南相馬市での感染拡大があって、個別に時短要請等をお願いしてきましたが、そこは、ある程度人口規模が比較的少ない中堅の市でした。

したがって、そういったエリアで感染が拡大しても、病床を広域調整することで、全体として抑え込んでいけるということがありましたが、福島市、郡山市、いわき市の3市で病床が埋まっていくということは、もはや広域調整をする余裕が無いということになりますので、極めて厳しい状況になっています。

こういう状況下で、県民の皆さんにお願いしたいことがあります。まず一つ目は、「第5波」の中に福島があるということです。第5波というのは、L452R、デルタ株の感染拡大です。L452Rのポイントは、感染力が強い、入院リスクが高い。そしてワクチンの効果を弱めるという三つの特色があります。これによって、この第5波の感染拡大がどうしても急速に広がる傾向があるということを、県民の皆さんに知っていただきたいと思います。

もう一つは、クラスターの存在です。これまで比較的感染が落ち着いていたのも、クラスターがあまり出なかったことがあり、さらに、一つのクラスターでの人数が少なければ、（新規感染者数は）極端には増えません。

しかし、今、7月に入ってまだ28日で1月になっていませんが、クラスターは20件発生しており、これはこの1年半近くの中で（月あたり）1番多いクラスター数です。しかも、この20件のうちの16件が飲食店由来、20分の16が飲食店（由来）です。こういった特徴がクラスターを大きくし、またそれを起因にして、職場、御家族、友人・知人間での間接的な感染拡大にもつながっているという現状があります。

このような状況の中で、夏休み、お盆になりますので、感染拡大地域との不要不急の往来は、原則中止、延期をお願いします。また、旅行や帰省等を含めて、県境を越える移動についても、

極力控えていただくよう、お願いしたいと思います。

また、先ほどもお話ししましたとおり、クラスター20件のうち16件が飲食（関連）です。飲食の機会には、どうしても感染リスクが高まりますので特に細心の注意が必要です。大人数を避け、小人数で行う、短い時間で、お酒を飲み過ぎない。普段一緒にいない方と飲食をすることによって、このL452R、デルタ株は、我々により近づいてきやすくなりますので、この点について、マスコミの皆さんのお力もお借りして、今、オリンピック等の報道ももちろん多いという事情は分かるのですが、何とかこの厳しい状況を、テレビ、新聞、ラジオ等でお伝えいただければありがたいと思います。

【記者】

先ほどの（福島県新型コロナウイルス感染症対策本部員）会議で、場合によっては県全体に強い対策を講じる可能性もあるとのお話があり、また、今、知事からも話がありましたが、既に主要の3市で急拡大している状況です。

今後、どういった指標を注視し、どのような状況になったら強い対策を講じるのかについて、考えを伺います。

【知事】

まず、中核市3市に、同時に（営業）時間短縮要請、不要不急の外出自粛をお願いするのは今回が初めてです。

基本的な認識として、本日は80件というワースト2の（新規）感染者数が確認されていますが、福島市、郡山市、いわき市が23名ずつで合計69名です。残りは会津若松市が2名、残りは、須賀川市、喜多方市、本宮市、南会津町、会津坂下町、棚倉町、檜葉町、大熊町、浪江町が1名ずつです。

これは、昨日も似たような傾向であり、中核市3市はかなり多いけれど、残りの自治体はほとんどが1人、あるいはゼロという状況でありますので、まずは、この中核市について徹底的に感染拡大を抑え込むということが、県独自の強い対策の意図、目的であります。

一方、先ほど発言したとおり、全体としてはまだステージ2相当でありますので、何とか病床等も工夫しながら、回していきたいと思っておりますが、やはりこういった指標が全体として悪化すること、特にこの新規陽性者数が、今は10万人当たり14.68人です。これは15人がステージ3（の水準）ですから、もう（ステージ3の水準に達するのは）時間の問題であります。

それから、10万人当たりの療養者数も今17.71人で、ステージ3（の水準）が、20人なので、これも時間の問題です。（スライドの新規陽性者数等の表を指しながら）ここ（10万人当たりの療養者数）が黄色（ステージ3）になるということは、病床使用率が赤（ステージ4）に近づくことと同じことになりますので、その場合は今の3市の対応に加えて、次にどうするかという議論をせざるを得ない状況はあろうかと思っております。

ただ一方で、先ほどお話ししましたとおり、今は中核市に集中的に患者さんが確認されており、残りの自治体は1人または0人という状況です。何とか59市町村のうちの56の市町村においては、今、各市長さん、町長さん、村長さんといったトップが、市民、町民、村民に訴えていただいて、基本対策の徹底で乗り切っていただき、その間に中核市の急拡大を抑えて（新規感染者数が）下がる方向に持っていくことによって、全県に（集中対策を）拡大しなくても済む可能性が、まだ残っていますので、県としては当面、その道をしっかり模索していきたいと考えています。

（終了）